

# Together

経営に関する難題解決の事例や手法、働く人々の思いや業界最新情報を共有する月刊紙



株式会社 KBS 創研

2018.5 No.163

知識 [Knowledge] と行動 [Behavior] で問題解決 [Solution] を支援

KBS は「HANDS ON 型」で、観光・サービス業界を支援します。http://www.kbsbiz.com E-Mail : info@kbsbiz.com

5月5日は二十四節季の「立夏」です。暦の上では早くも夏到来です。海外や北海道、沖縄等遠方への旅行を計画する人や最繁忙期である盆時期の予約は既に動き始めています。新緑が美しい爽やかなこの時期ですが、頭を夏モードに切り替え商戦に臨みましょう



代表取締役 小泉壽宏

## KBSエンタープライズの旅行流通事業

**ロシア最大の経済団体の日本法人「オーポラロシア福岡」の訪露団の一員として  
ロシア連邦共和国のモスクワ、サンクトペテルブルグを訪問し  
沖縄・日本への旅行客の誘致を行ってまいりました。**

■ 期間：2018年3月12日(月)～3月19日(月)

125業種、約50万社の中小企業が加盟するロシア最大の経済団体「オーポラロシア」。その日本法人である一般社団法人オーポラロシア福岡(田村文彦会長)の一員として、今年ロシア連邦共和国を訪れ、同国の産・学・官の分野において重要なポジションで活躍される方々と交流を深めてまいりました。この訪露団にはロシア人の健康改善に貢献する学識経験者、同国において問題となっている環境問題に寄与する実業家、そしてロシアと日本との人的交流を促進する観光チーム等が参加、それぞれが関係する団体、企業等を訪問し様々なミーティングを行いました。観光チームは琉球大学国際地域創造学部の荒川雅志教授、九電産業株式会社旅行部の武村誠治部長と小泉の3名で構成しロシア人の沖縄・日本への訪問ニーズの把握やPRを行ってまいりました。

小泉にとって初めての同国訪問でしたが、親日家の多いロシアの方々の温かなもてなしに触れるとともに現地に行かないと入手できない様々な情報を吸収し大変充実した渡航となりました。



モスクワ・クレムリン宮殿にて(中央:琉球大学荒川教授、右:九電産業武村部長)

た。KBSエンタープライズとしてはこの経験と今回培った人的ネットワークを活かし日露友好の懸け橋となるべく人的交流のエンジンとして貢献してまいり所存です。

### ■オーポラロシアとの出会いと訪露

本紙の2017年11月号でご案内致しましたが、昨年10月にオーポラロシアの幹部を沖縄へご案内したのがご縁でした。健康寿命の延伸が国家的課題となっている同国を様々な立場で支える方々に是非沖縄の健康長寿の環境を知っていただきたいとの観点から訪日のタイミングに合わせ沖縄への訪問をお願い致しました。その誘致に尽力されたのが武村部長であり、沖縄での滞在プログラムの全体監修されたのが荒川先生でした。

この沖縄での滞在では「健康と癒しのまち」金武町との交流協定の締結に始まり、沖縄ならではの食材を使った郷土料理やフィッシングツアー&船上バーベキューを楽しんでいただきました。しかし、同国の方々に沖縄・日本へ訪れていただくには我々がもっと同国のことを知る必要があると感じました。そんな思いから今回の訪露に至った次第です。

## ■ロシアの知識人が沖縄の環境と食文化を高く評価

平均寿命が男性で60歳代半ば、女性では70歳代と我が国に比べ短いロシアにおいて国家的な課題は健康寿命の延伸です。今般、荒川先生はサンクトペテルブルグの医師専門職業訓練カレッジ、モスクワの同州保健省モキニ医学センターの2カ所で講演。沖縄の環境や食文化が健康寿命の延伸に寄与してきたか、またそれらを体感するためにウェルネスツー

リズムがいかに効果的かをレクチャーされ、ロシアの知識人から高い評価を受けました。

昨年秋の沖縄訪問に同行され、今般の我々の訪露で再会を果たしたモスクワ大学のオレグ教授からは荒川先生が監修されている「沖縄食材図鑑」のロシア語版での出版の提案を頂き、またロシアワイン&ガストロノミー国際センター代表からは本年11月下旬に東京にて行われる「ロシア観光グルメ週間」(Russian Tourism Gastro Week)のロシア大使館でのオープニングイベントへの招待を受けました。

食の世界から沖縄・日本への興味が広がり、人的交流の輪が広がることを目指していきたいと感じました。



▲医師専門職業カレッジにて(サンクトペテルブルグ) ▲モキニ医学センターにて(モスクワ)

## ■ロシア旅行業をリードする強力な2社の旅行会社と懇談

モスクワではオーポラロシア副会長で年間270万人の旅行者を扱う旅行会社の代表でありアレクセイ・コジエブニコフ氏、モスクワ商工会議所から紹介を受けた富裕層FIT専門の旅行会社Sodis社の代表、ウラジミール・ポポフ氏と懇談する機会に恵まれました。

両代表から指摘をされたロシア人の日本の印象は「東京という先端技術が凝縮された近代都市と京都や高山のような日本の伝統文化が息づいた都市が併存する多様性」に興味を持っているが「沖縄のような海洋リゾートのイメージはない」とのことでした。海洋リゾートとしてはタイのプーケットやイスラエルのテルアビブ等への旅行ニーズが強いようです。

沖縄へロシアのツアーを誘致するためには、まずは東京、京都等ロシア人のイメージにある日本の都

市を訪問しながら2,3泊沖縄に滞在していただくようなルート提案を行うとともに、首都モスクワを中心に沖縄の食文化の発信を行いウェルネスツーリズムの需要を喚起し沖縄も日本の観光地のひとつとして魅力的なディステーションであることを訴求する取り組みが必要であると感じました。



▲Sodis社にてスタッフの方々と(モスクワ) ▲モスクワ大学オレグ教授(左から2人目)と

## ■今後の取り組み

日本政府観光局(JNTO)の調査によると2015年の実績においてロシア人が一番訪れる国はトルコであり年間363万人が訪れているとしています。一方日本へは年間5万人程度と大きく水をあけられています。一昨年、山口県において開催された日露首脳会談以降、日本への渡航に必要なビザの取得が容易になったため現在ではこの数値を上回っていることが想定されますが、それでも低い水準で推移しているものと推察しま

す。その要因としては情報不足が考えられます。東京や京都といったメジャーディステーションに留まらず沖縄を中心に魅力ある他の都市の情報をきめ細かく発信し続けることがその浮揚策につながるものと受け止めました。KBSエンタープライズとしては荒川先生、武村部長始めオーポラロシア福岡とも連携を図り、沖縄を中心とした観光コンテンツの開発と情報の発信に腐心する所存です。

### 編集後記

今月のTogetherは、新たな観光ビジネスを世に送り出すインキュベーターを目指すKBSエンタープライズの旅行流通事業特集。健康寿命の延伸が国家的課題となっているロシアから、長寿県・沖縄へ観光客の誘致というKBSエンタープライズの特性を活かした展開。沖縄の健康長寿を支える生活様式や食文化を体験する滞在型観光による両国の交流へ——期待が高まりますね。(増田)

### 株式会社 KBS 創研

関西本部：〒661-0003 兵庫県尼崎市富松町3丁目1-5-203 TEL:06-6423-5561/FAX:06-6423-5571

東京本部：〒151-0053 東京都渋谷区代々木2丁目23-1-766 TEL:050-3452-2488

沖縄本部：〒900-0012 沖縄県那覇市泊2丁目1-18 T&C泊ビル4階 TEL:098-917-0117/FAX:098-943-1501

<関連会社>株式会社KBSエンタープライズ(2018年4月開業)

●代表取締役：小泉壽宏

●事業内容：観光・サービス業の経営支援

●設立：2004年4月

●地域オフィス：関西・東京・沖縄